

<Japan Buy-out Deal Conference in 宇都宮>

企業価値向上シンポジウム

～事業再編、事業承継、経営革新における戦略的視点～

謹啓

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。この度、宇都宮にて、「企業価値向上シンポジウム」を開催することになりましたのでご案内させていただきます。企業競争力の強化のための戦略的視点が重要になってきている中で、栃木県を中心とする北関東地区と南東北地区の企業経営者の皆様には有益な情報をお伝えできればと思います。

近年、M&A (mergers & acquisitions) に加え、バイアウトの手法が企業価値向上のための選択肢として認識されつつあります。また、地方企業が経営基盤の強化や生産性の向上を目指して M&A やバイアウトの取り組みを行うケースが増えており、多数の事例が出てきています。この十数年の間に、東日本地域においても、製造業(自動車部品、産業機械、電気機器、電子部品、精密金型、プラスチック製品、金属製品、非鉄金属、化学、医薬品、食品、農水産物加工、日用品、木製品、繊維など)、小売・卸売業(食品スーパー、アパレルショップ、専門店、専門商社など)、サービス業(外食チェーン、教育サービス、医療・福祉・介護サービス、法人向けビジネス・サービスなど)、運輸・物流、建設・不動産など多様な業種で事例が登場しました。具体的には、日本企業の事業再編・子会社独立にバイアウトの手法が活用された事例、中堅・中小のオーナー企業の事業承継にバイアウトの手法が活用された事例、多様なネットワークを活用して海外事業を強化した事例、再生企業が資金調達を実施して抜本的な経営改革を行った事例、などが出てきています。本シンポジウムでは、バイアウトの手法と事例を分かりやすく解説します。

経営改革を行いさらなる成長・発展を目指す企業の経営者、後継者問題を抱える中堅・中小のオーナー企業の経営者、戦略的 M&A や事業再編を検討している企業の経営者、アジアを中心とする海外に拠点を有する企業の経営者などの方々にお勧めです。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

開催要領

【日時】

2020年3月18日(水) 13:10～17:30 (12:40 受付開始)

【会場】

チサンホテル宇都宮 2階「ふじの間」(栃木県宇都宮市駅前通り 3-2-3) JR 宇都宮駅西口徒歩 1分

【参加費】

1名 18,000円(税込)

【参加対象】

- 未上場オーナー企業の経営者、上場企業(子会社を含む)の経営者(経営企画担当、財務担当、社長室など)
- 地域金融機関(地方銀行、信用金庫など)、大手銀行、証券会社 ■弁護士、会計士、税理士などのプロフェッショナル

【お申し込み方法】

申込書での FAX 送信か Web サイト上 (<http://www.jbo-research.com/>) で申込書をダウンロードしメール添付で送信下さい。

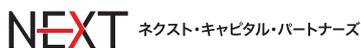
Lead sponsors



Co-sponsors



TMI 総合法律事務所



日本みらいキャピタル株式会社



BUILT THE FUTURE TOGETHER



RISE JAPAN EQUITY

主催：株式会社日本バイアウト研究所

協力：株式会社日本政策投資銀行 株式会社中央経済社

URL: <http://www.jbo-research.com/>

【お問い合わせ先】 jbori@jbo-research.com (担当：杉浦)

プログラム

受付開始 (12:40)

手法解説/マーケット・レビュー (13:10-14:00)

テーマ：日本企業のM&Aの潮流とバイアウトの手法 ～近年の事例をふまえて～
株式会社日本バイアウト研究所 代表取締役 杉浦慶一

<概要>

近年、日本企業によるM&Aの取り組みが増加しているが、首都圏の大手企業だけでなく地方の中堅・中小企業においても積極的に活用されている。本プレゼンテーションでは、近年のM&Aの潮流について述べた上で、M&Aとバイアウトの特徴を比較し、バイアウトの手法の活用パターンおよび活用の際の留意点について解説する。また、製造業および小売・サービス業を含む多様な業種のバイアウト案件の動向について明らかにする。特に中堅・中小のオーナー企業の事業承継や資本再構築を伴う案件、大手企業の事業再編による子会社・事業部門の独立を伴う案件、アジアを中心とする海外事業の強化が実施された案件について、具体的な事例を交えて説明する。

事例紹介① (14:00-14:30)

テーマ：素材菓子市場 No.1 への軌跡 ～オーナー型経営からハンズオン支援による組織型経営への移行～
アント・キャピタル・パートナーズ株式会社 ディレクター 大宮伸巧氏

<概要>

1991年創業の壮関(本社：栃木県矢板市)は、荃わかめ・カリカリ梅を中心に海産物・農産物といった素材を活かしたお菓子の企画・製造・販売を行っている。健康志向の高まりを背景に、大手コンビニエンスストアをはじめとした大手小売先プライベートブランド商品の展開により急成長を遂げていた中、オーナーが今後のさらなる成長を見据え、バイアウトの手法を活用した事業承継を決定。アント・キャピタル・パートナーズによるハンズオン支援を通じ、役職員自らが考えて経営する組織型経営へと移行。2018年に全従業員でまとめあげたスローガン「食と笑顔 未来へつなぐ架け橋に」をもとに、組織における存在意義を追求する「パーパスマネジメント」を導入し、2019年に念願の素材菓子市場 No.1 に至るまでの軌跡を紹介する。

休憩 (14:30-14:40)

事例紹介②インタビュー・セッション (14:40-15:15)

テーマ：「事業承継」と「成長戦略」の両立の実現に向けたギフトプラザの“第二の創業”への取り組み
～国内10兆円のギフト市場の業界再編・連携に地域の企業として挑戦～
株式会社ギフトプラザ(旧株式会社おおつか) 代表取締役社長 丸山和雄氏
日本プライベートエクイティ株式会社 マネージャー 渡邊達也氏
聞き手：株式会社日本バイアウト研究所 代表取締役 杉浦慶一

<概要>

1978年創業のギフトプラザ(本社：福島県郡山市)は、ギフトの大型専門店を東北・北関東中心に23店舗展開している。人口減少、少子高齢化、さらには東日本大震災といった厳しい環境を乗り越え、ギフトの店舗販売では国内有数の規模を誇る、地域を代表する企業である。今般、中小製造業や地方のオーナー企業への事業承継支援で20年の歴史を有する日本プライベートエクイティと組み、“資本と経営の承継”を実現したことを契機に、組織経営、M&A、EC展開といった成長戦略を積極的に進めている。本セッションでは、市場規模10兆円といわれるギフト業界で、地域の企業としての文化や伝統を堅持しながら変革に挑む取り組みを紹介する。

事例紹介③インタビュー・セッション (15:15-15:50)

テーマ：銘菓・名産品メーカーの事業承継を通じた地方創生構想 ～日本銘菓総本舗の挑戦～
株式会社庫や CFO 林昭洋氏
株式会社アドバンテッジパートナーズ プリンシパル 西村隆志氏
聞き手：アンテロープキャリアコンサルティング株式会社 コンサルタント 前田雄一郎氏

<概要>

地域に根差し長年愛され続けている銘菓・名産品が日本には数多く存在する。しかしながら、そのような老舗企業においても、後継者不在、人材不足などに悩むケースは多い。日本が誇る文化を未来へどのように承継していくか。この社会課題を解決するべく、アドバンテッジパートナーズは2018年8月に日本銘菓総本舗を設立し、第一号案件として、庫や(本社：栃木県那須塩原市)への支援を開始した。本セッションでは、那須エリアを中心に長年にわたり愛され続けているブランドを承継しながら、外部の経営プロフェッショナル人材との融合により、老舗企業を昇華させていく挑戦の過程を紹介する。

コーヒーブレイク (15:50-16:05)

パネルディスカッション (16:05-17:15)

テーマ：日本企業の次なるステージへの飛躍に向けて ～バイアウトの手法を活用した企業価値向上戦略～
インテグラル株式会社 パートナー 山崎壯氏
日本プライベートエクイティ株式会社 代表取締役社長 法田真一氏
アント・キャピタル・パートナーズ株式会社 ディレクター 羽嶋優氏
司会者：株式会社 KPMG FAS パートナー 坂田恵夫氏

<概要>

激変する環境下において、人材不足、マーケティング・チャネルの拡大、グローバル化への対応、財務体質の強化などの経営課題を抱えている中堅・中小企業が多いが、M&Aやバイアウトの手法はこれらの課題を解決する有力な手段となる。本セッションでは、製造業(産業財・消費財)および小売・サービス業を含む多様な業種の案件に関与しているプロフェッショナルに登壇頂いて、どのような経営課題を抱えている企業がバイアウトの対象になるのかについて紹介する。また、ファイベスト(光電子部品の開発・製造)、米沢精密(精密金型部品の製造)、マルホン(木質建材の輸入・企画・製造・販売)、サンデン・リテールシステム(流通関連機器の製造)、ワタナベ(金属部品の精密板金加工)、アミノ(回転寿司店・寿司料理店の運営)など、多彩な事例を取り上げながら、バイアウトの手法を活用する際の留意点や企業価値向上に向けたキーポイントなどについての討論を行う。

クロージング・スピーチ (17:15-17:30)

テーマ：M&A・事業再編・事業承継と法的留意点 ～バイアウトの活用も含めて～
TMI 総合法律事務所 弁護士 工藤竜之進氏